

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3090100177
法人名	(株)介護ステーション オアシス
事業所名	グループホーム オアシスⅡ
所在地	和歌山市つつじが丘2丁目6-1 (電話) 073-455-1330
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関 あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成20年7月18日

【情報提供票より】 (平成20年6月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算	8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (退居時全額返済)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年6月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかたクリニック 小林歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘陵地にある新興住宅街の中に昨年9月開設された2階建てのグループホームである。周囲は建物も少なく、天気の良い日には近くの公園に散歩に行ける。2階フロアの中央にリビングがありいつも利用者の皆さんが集まり、リビングからはどのお部屋も見渡せるようになっていいる。管理者・職員は「利用者を個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現するよう努める」ことをモットーに日々利用者に関わっている。このグループホームは、利用者に季節の食材を使った食事を提供し、十分な職員配置の中で一人ひとりのかわりを大切に支援している。また、ここでターミナルを迎えることも近隣の医師との連携で実現している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回の外部評価の受審である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価ならびに外部評価について管理者・法人代表はその意義を理解しているものの、全職員の理解までに至っていない。今回の外部評価を通じてその狙いと活用方法の周知が求められる。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>設立されて日が浅く、運営推進会議がまだ開催されていない。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族に月1回は必ずグループホームに来所していただき話し合いがもたれている。職員からは利用者の日々の生活の状況・金銭管理の状況・行事の写真などを報告、家族からはグループホームへの質問などが出されている。しかし、サービス計画に対して家族から意見が出されることは少ない状況である。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域の一員として自治会に加入し、グループホームでの夏祭りや運動会などの行事に多くの地域の方々の参加が見られる。今後、地域での行事への参加や福祉の拠点としての役割が期待される。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり一緒に楽しい生活を、馴染みの関係作り等」を具体的に記述された理念を掲げ、法人内のサービスを連携させ、地域とのかかわりを大切に運営している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム内に理念を分かりやすく掲示し、ミーティング等を通じて管理者と職員が理念を共有し、その実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、グループホームの夏祭りや運動会などの行事に多くの地域の方々の参加が見られる。今後地域での行事への参加や地域の福祉拠点としての役割が期待される。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価ならびに外部評価について管理者・運営者はその意義を理解しているものの、全職員が理解するまでに至っていない。今回の外部評価を通じてその狙いと活用方法の周知が求められる。	○	今後、評価の狙いや活用方法を全職員で理解し、自己評価に取り組んでいくことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	設立されて日も浅く、運営推進会議はまだ開催されていない。地域の声や家族の声を吸い上げることができる会議であり、早い段階での開催が求められる。	○	市役所や地域の自治会に働きかけ、グループホームの事業や運営推進会議の必要性を理解していただき、定期的な運営推進会議の開催が求められる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携が不十分である。	○	運営推進会議の立ち上げなど当面の課題に対し、市の担当者との連携を持ち、介護サービスの質の向上に取り組むことが望まれます。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に月1回は必ずホームに来所していただき、職員から利用者の日々の生活の状況・金銭管理の状況・行事の写真などの報告を行っている。また、家族からの質問などを受けて話し合いをしている。しかし、設立後間もないことからホーム便りは発行していない。	○	行事などが写真の段階で終わっているため家族の方とのコミュニケーションを図るために写真を活用したホーム便りの発行を期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意向を確認するため、最低月1回の訪問を要請しており、利用料の支払いが振込みでなく持参していただくという方法をとっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置基準を厚くし、勤務時間に余裕を持たせ、給与面でもできるだけ配慮を行っている。また、雇用に関してもできるだけ近隣の方を雇用するなど配慮している。開設して日も浅いこともあって職員の異動はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じてグループホーム連絡会や県介護普及センターの研修を受講する体制があり、受講後に内部でその内容を報告する機会も設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山市のグループホーム連絡会に加盟し、年2～3回研修会や催し事には参加して、事業者同士情報交換を通じて、質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に利用者がデイサービスやナイトサービスを利用して、職員、利用者、家族が十分馴染みとなることで、スムーズなサービス利用が行われている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員全員が利用者や家族に対していつも笑顔で接することを心掛け、「ゆっくり・一緒に・楽しく」をモットーに日々の生活を過ごしている。絵が得意な利用者には絵を描いていただき、歌の好きな方は率先して生き生きと皆さんの前で歌を歌ってもらい一人ひとりの得意分野を生かし、支えあう関係作りを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時アセスメントで利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向などを把握し記録している。日々の関わりの中でも希望などを記録し、毎月の会議や申し送りなどで職員間で情報の共有を図っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1回ケア会議を開催し、個人の状況を把握し、具体的な介護計画の作成につなげている。また、問題がある時は家族に呼びかけ、会議への参加を促している。介護計画は利用者、家族に説明し、同意後署名を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合はもちろん、3ヶ月毎に介護計画を見直している。家族の訪問時、必ず、家族と話をする時間を設けて、利用者・家族の思いやニーズについて話し合っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援は十分に行っている。一人ひとりの希望に応じた個別の支援を行っている。今後一人ひとりの希望を把握し、柔軟に支援していく予定である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関であるたかたクリニックとの関係も非常にスムーズで、家族の希望に応じた個別のかかりつけ医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ、事例はない。入所時、終末期のあり方について家族との話し合いは行っている。グループホームとしてターミナルケアについての対応を考慮していることは評価される。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へ声かけや排泄介助の誘導の仕方など個人のプライバシーに配慮した対応をしている。事務所内に利用者家族への連絡先一覧表を掲示しているが、個人情報でもあり工夫が求められる。	○	利用者家族への連絡先や排便記録の一覧表など個人情報に係る書類の置き場所に工夫が求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間は利用者の起床に合わせて幅を持たせている。昼食、夕食時間は利用者全員が一緒であるが、それ以外は時間を区切った過ごし方はしていない。利用者の気分に合わせて、カラオケの好きな人は併設のディサービスに行ったり、散歩の好きな人には可能な限り、付き添って散歩に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の多くが介護度が高く、一緒に調理することは難しいが、豆の筋をとったり、皮をむいたり、出来ることで職員と一緒に食事の準備をすることがある。焼肉や回転寿司などの外食や喫茶に行くこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間を入浴に当てている。同性介助を原則としている。車椅子使用の利用者など重度の方に対しては男性介護者で対応している。入浴拒否の利用者に対しても無理強いすることなく、その人の気分に合わせて対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の趣味や生活歴、体力や意欲も含めて、出来ること、楽しみごとを探す努力をしている。絵を描くことを勧めたりしているが、年を重ねるに従って、だんだん出来なくなる状況である。全員で歌うことを楽しみとしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気が良い日は毎日のように近所を散歩している。車で公園やお花見に出かけている。近くのスーパーにおやつを買いに行ったり、外食に出かけたりしている。その都度、写真をたくさん撮っている。負担のかからない方法で記録として残しておかれたらよい。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設のデイサービスの玄関とグループホームの玄関が小さなホールをはさんで向かい合っている。グループホームの玄関は施錠していないが、建物構造上の問題からホールの玄関には鍵を掛けている。グループホームの利用者は落ち着いており、安全面を考慮しても施錠する必要はなく、施錠したくない意向は確認できた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は行っているが、避難訓練は行っていない。付近は新興住宅街でグループホームの付近には住宅も少なく、住民も若い世代の方が多く、地域の方々からの協力を得るところまでには至っていない。	○	近隣の住民の方にグループホームを理解していただき、協力を求めるにはかなりの時間が必要である。今後の努力が期待される。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が決めている。他病院の献立を参考に栄養バランス、カロリーに気をつけている。好き嫌いに配慮し、調理法を工夫している。新鮮な野菜、魚など、出来る限り、地元の物を使っている。利用者もほとんど完食されている。水分量は毎食後、おやつ時、入浴後に提供するお茶などで確保している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体に明るい雰囲気、職員の手作りのものや利用者の作品が飾ってあり、居心地のよい雰囲気である。一人になりたい時のために居間の一角にソファを置いている。浴室は家庭に近い雰囲気、リフト式の機器は置いていない。トイレは1ヶ所で昼間は併設のディサービスのトイレを使う人もある。それも又、気分転換になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人の使い慣れた物の持ち込みはあまり多くないが、仏壇やお孫さんの写真を飾っている人もおられる。まだ、オープンして日が浅いので、徐々に持ち込みも増えて利用者個人の住まいらしくなっていくことを期待したい。		

※  は、重点項目。